

そしてストイック・ワインの境地にたどり着く！

ジョエル・クルトー（ドメーヌ・ド・ベル・エール）

生産地

トゥーレーヌ地方のブロワ市から南に 30 km ほど下ったシェール川沿いに、旧ローマ時代の足跡を残す村テゼがある。テゼは、ロワールのビオディナミトにして自然派ワインの重鎮ミッシェル・オジェのドメーヌがあるが、そこから 5 km も離れていない場所に「ドメーヌ・ド・ベル・エール」、ジョエル・クルトーのドメーヌがある。シェール川北面を沿って緩急の起伏に富んだ畑が連なり、気候は寒冬暑夏の大陸性気候だが、川の影響で気温の較差あまりない、夏も冬も比較的穏やかな気候に恵まれる。

歴史

現オーナーのジョエル・クルトーは、もともと父の代から続くブドウ栽培農家として生計を立てていた。1998 年に、隣人で大の友人でもあるビオディナミストのブリュノ・アリオンの影響で、畑をビオに転換し、2000 年から徐々にビオディナミの農法を畑に取り入れるようになる。彼のブドウは、ビオに転換する以前はほとんどを地元のワイン農協に卸していたが、転換以降は主にティエリ・ピュズラのネゴシアンブドウや、パスカル・ポテールのワインの一部に卸されるようになる。ビオディナミに変えてからますます交友の深くなった、パスカル・ポテールやミッシェル・オジェの勧めで、2003 年、一部の畑を利用し、彼自らが自然派スタイルのワインを造り始めるに至る。

生産者

現在、ジョエルは所有する 6.8ha の畑を管理している。（うち彼自らのドメーヌのために 1 ha を確保している。）彼の所有する品種は、ソービニヨンブラン、シュナンブラン、ガメイ、カベルネフランの 4 品種で、樹齢の平均は 30 年である。（ソービニヨンブランは 40 年）2003 年に自らのドメーヌ「ドメーヌ・ド・ベル・エール」を起ち上げ、現在はビオディナミ農法はミッシェル・オジェ、醸造はパスカル・ポテールのアドバイスの下、徐々に彼独自の自然派ワインのスタイルを作り上げつつある。ジョエル自身は背丈が低いためみんなからからかわれやすいが、とても寡黙で、仕事に対する真剣な姿勢や、バカ真面目ともいえるその正直な性格から、トゥーレーヌの多くのビオの生産者から絶大な信頼を得ている。

ちよつと一言、独り言

初めてジョエルと知り合ったのは、当時私が新井女史の経営するドメーヌ・ボワルカでスタッフとして働いていた時だった。彼はフランス人の平均身長よりも低く、決して日本人から見ても背の高くない私は、彼の背丈、仕事に対するひたむきな姿、内向的な性格が日本人にオーバーラップされて、ある意味特別な親近感を抱いていた。残念ながら、彼はその身長故ロワールの自然派のメンバーから半ばマスコットのように可愛がられ、半分からかわれているが、それでも彼のつくるブドウにはみんなが一目を置く。たとえば、ミッシェル・オジェが先頭に立つトゥーレーヌのビオディナミのコミュニティーでは、真面目さの面で評価が高いのはジョエルだし、また、彼のブドウの可能性をいち早く見つけてブランドに結びつけたワイナリーには、ティエリ・ピュズラ、パスカル・ポテールがいる。彼はまさにトゥーレーヌの中では「小さな巨人」なのである。

最初に、彼のつくるワインを熱心に奨めてくれたのはパスカルだ。ジョエルがつくる2004年までのワインは、全てパスカルがアドバイスをしていたから、彼がジョエルのワインを奨めるのも分らなくもないが、ただ、パスカルがつくるような素朴なワインを探していた我々としては、彼がアドバイスに加わるワインはむしろ大歓迎であった。まして、ジョエルの畑は、ミッシェル・オジェが太鼓判を押すくらいに真面目に手入れされていて、良い状態に管理されている。

ティエリもネゴシアンでブドウを買っているし、「ドメーヌ・ド・ベル・エール」はまさに、エリートのお墨付きから生まれたようなドメーヌなのだ！

音楽鑑賞と鉱石収集が趣味のジョエル。彼の鉱石に関する思い入れはハンパではない！キュヴェ名に代表されるような鉱石はもちろん、畑に散在する化石やシリウスにも興味を広げる。「畑に落ちている化石を見つけるくらい慎重にブドウ畑を観察したら、病気の心配はない！」彼は毎日「面白い石はないか？」と探し回っている。ブドウ畑での仕事を、仕事としてではなく趣味も兼ねている点は、彼にとってまさに理想の仕事と言えるのではないか。

そんな彼も、いざ自分のところのワインの特徴を訊かれると、とても慎重になる。「今のところまでは、パスカルとミッシェルのおかげで、自然派ワインが何たるものかというのがおぼろげに見えてきたような気がする。でも、これからは、テロワールや自分のつくりたいワインの個性を、自分自身の経験の中から語り、表現ができるよう努力していきたい」

ジョエルはまだまだ進歩できる可能性を探っている。彼の寡黙な真面目さがあれば、近いうちに師匠を唸らせるワインができるであろう。

彼が今後、パスカルの手を徐々に離れて、一体どんなサプライズワインをつくり出すか！これから時間をかけて追いかけて行きたいドメーヌだ！